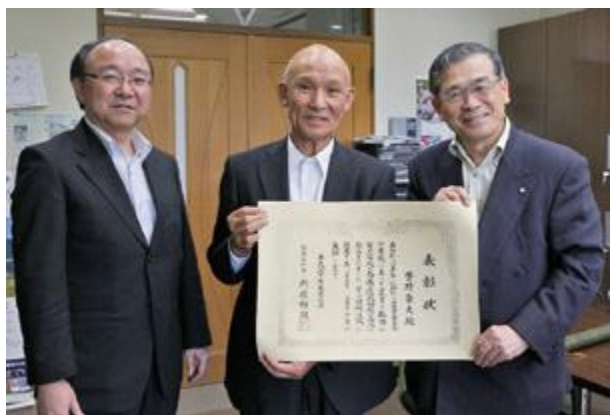


菅野宗夫さんに知事表彰 農業再生と地域振興の功績に



表彰の報告に来庁した菅野さん(中央)と、菅野村長(右端)、石井農業委員会事務局長(左端)

5月15日、杉妻会館(福島市)で、平成30年度各種功労者知事表彰が行われ、菅野宗夫さん(佐須)が表彰を受けました。震災前から農業委員会の要職を務め、農業の振興と再生、さらには地域づくりに貢献してきた功績が認められたものです。来庁し表彰を報告した菅野さんは、「農業委員が一丸となってやってきた。その全員を代表して受けた表彰だと思います。農業者の意欲をつなぎ、若い農業者とも意見を交わし、村の農業を次の世代につないでいきたい」と語りました。

ジャズにのり笑顔もスイング 「ふれ愛コンサート」



フィナーレは出演バンド合同のステージ。ラストナンバー「ふるさと」は会場も一緒に歌いました

4月21日、交流センター「ふれ愛館」で、自主文化事業「ふれ愛コンサート」が催されました。出演は、「城所辰男と横浜ハッピーセブン」「福島高校Jazz研究部」「スインギン・イージー」の3バンド。ジャズをメインにクラシックや昭和歌謡も演奏し、約50人の聴衆を楽しませました。城所辰男さんは90歳の現役プレイヤーで、和やかなトークでも会場を盛り上げました。また、高校生の演奏には、会場から思わず声援が。終始あたたかな雰囲気にもまれ、音楽を楽しむひとときとなりました。

大人気の寄せ植え教室 8種類のハーブで



鈴木先生(中央)を囲む参加者の皆さん



男性参加者も大歓迎！
心和むひとときを

5月20日、交流センター「ふれ愛館」で、樹木医の鈴木俊行先生を講師に「寄せ植え教室」を開催しました。豊富な知識を愉快的な話術で伝えてくださる鈴木先生の講座は毎回大人気。今回は30人が参加し、富良野ラベンダーや日本ハッカ、パイナップルミントなど8種類のハーブを、白い角鉢に植え込みました。参加者は先生のアドバイスを受けながら、自分好みの寄せ植えを仕上げ、充実した時間を過ごしていました。寄せ植え教室は継続開催中で、次回は11月に開かれる予定です。

今後の課題を協議 避難村民自治組織連絡協議会



各自治会の会長が、今後の活動や支援のあり方について意見を述べ合い、村と協議しました

5月10日、村役場で、避難村民自治組織連絡協議会が開かれました。避難先の自治会は18団体ありましたが、解散が徐々に進み、今年度も継続するのは8団体。年度途中の解散も複数見込まれています。会では、自治会ごとの状況が報告され、仮設住宅等の供与期間が終了する年度末も見すえて、今後のあり方が話し合われました。菅野村長は「知らない者同士が家族以上のつながりを作ってきた」と自治会の意義に触れ、課題に共に向き合うことを、一同で申し合わせました。

東大名誉教授 早野龍五先生 宇宙をテーマに特別授業



多彩なアプローチで
宇宙を語る早野先生



村復興アドバイザー・田中俊一さん(上飯樋/写真右上)が子ども達のために企画した特別授業の第1弾

5月22日、飯舘中学校で、東京大学名誉教授の早野龍五先生による特別授業が行われ、全校生徒と教職員、聴講に訪れた村民らが、宇宙について学びました。前半は早野先生が、さまざまな角度から宇宙の姿を解説。後半は生徒がグループに分かれて、月までの距離や宇宙年齢の概算に挑戦しました。出題3問の解答を代表の生徒がホワイトボードで説明すると、先生は「よくできたね」とそれぞれを賞賛。授業の後には「関心が深まった」「誰かに教えたい」と語る生徒の姿がありました。

ウクライナからの訪問団 村の復興にあたたかなエール



通訳を通じて復興の現状と村の考えを伝えました

5月15日、ウクライナの訪問団が来庁し、村長や復興対策課の職員と懇談しました。訪問団は、福島市で行われた国際シンポジウムに参加した同国の行政関係者で、村の復興に関心を寄せ来村しました。菅野村長は、震災後の経緯と現在の課題を説明し、「我々が学んだことを次世代にどう伝えていくかが重要」と考えを述べました。訪問団のスラヴティチ市・ユーリー市長は、「我々も(原発事故の)避難者。村の復興は勇気を与えてくれる。心から応援しています」と思いを伝えました。



握手を交わし記念品を手渡す訪問団のユーリー市長(右)と菅野村長